

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500170
法人名	社会福祉法人 すいよう会
事業所名	グループホーム ほの花
所在地	新居浜市郷3丁目16-33
自己評価作成日	H23年 5/15

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

水分摂取に力を入れ、一日1500mlを目標とし、脱水の予防、日中の覚醒レベル向上に繋げると共に下剤を使用せず排便ができるようにコントロールしている。入所時点でオムツや紙パンツを使用している方には、再アセスメントを行い、可能な限り布パンツにて失禁なく、トイレでの排泄が可能になる自立支援に取り組んでいる。また、認知症状の改善には学習療法を取り入れ、コミュニケーション能力の改善や生活の活性化に繋がっている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開設時には、自治会の会議に出席して事業所の説明をされた。又、事業所内にある「共用室」を、地域の方にも使用していただけるよう案内された。年末、餅つきをした際には、お隣の方にもお餅をおすそ分けされたり、お隣の方からは、野菜をいただくこともある。オカリナを聞かせてくださるボランティアの方も来てくださっており、運営推進会議にも参加して下さっている。事業所にかかわる方達との縁を大切に、ネットワークを拡げていけるよう取り組まれている。

職員は「帰りたい」という思いがある利用者や、ご本人が生まれた場所に出かけてみられたり、近くの神社に行ってみることもある。神社は、ご本人が子どものころから変わることなく残っており、ご本人は職員に思い出話をしてくださり、ご本人の気持ちも落ち着くようである。又、ご自宅の自治会の方が、地区の敬老会のお祝いの品を届けてくださり、おしゃべりして帰られた。年賀状を投函することを支援したり、親戚や友人の方からの手紙のお礼に電話をする際には、職員がサポートをされている。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム ほの花

(ユニット名) 椿

記入者(管理者)  
氏名 奥野谷 誠

評価完了日 23年 5月 15日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 事業所開設にあたり、法人の理念である「利用者と共にそして地域のパートナーとして」を基に、当事業所の理念を全職員で話し合い作成し、開かれた事業所を目指している。常に目の届く所へ掲げ、すべての場面において理念に基づいているかを振り返るようにしている。	
			(外部評価) 開設時、職員で話し合っ『「ほっと」「のんびり」「かきねなし」笑顔で過ごす実りのある暮らし』等、事業所理念を作成され、パンフレットにも示して、ご家族や地域の方達にも事業所が目指していることが分かるようにされている。又、「出会う人との縁」を大切にして「かきねのない」地域とのつきあいを実践できるよう、取り組みをすすめておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 自治会に加入し、盆踊りや清掃活動など地域行事に参加している。また、事業所主催での行事への参加を呼びかけ、参加して頂くことで交流を深めている。毎日の食材は地元スーパーより購入し、近所の主婦の方々に調理員として勤務して頂いている。運営推進会議には、地元の住民代表として毎回数名の方々が参加していただき、意見交換を行っている。	
			(外部評価) 開設時には、自治会の会議に出席して事業所の説明をされた。又、事業所内にある「共用室」を、地域の方にも使用していただけるよう案内された。年末、餅つきをした際には、お隣の方にもお餅をおすそ分けされたり、お隣の方からは、野菜をいただくこともある。オカリナを聞かせてくださるボランティアの方も来てくださっており、運営推進会議にも参加して下さっている。事業所にかかわる方達との縁を大切にして、ネットワークを拡げていけるよう取り組まれている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 事業所として行っているのは、運営推進会議での勉強会のみとなっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) ご家族、地域の代表、行政が参加し、意見交換を行っている。そこで話し合われたことを、ご利用者の生活の質向上に活かしている。日頃の様子については、DVDを作成し分かりやすく行事報告を行っている。</p> <p>(外部評価) 会議は、年間計画を立てて取り組んでおられ、自治会長や地域の見守り推進員の方、民生委員の方やご家族等も会議に参加して下さっている。事業所は「認知症の理解を深めていただけるような会議」となるよう、会議時に認知症の勉強会を行ったり、事業所の活動報告をされたり、事業所で取り組んでいる学習療法の経過報告をされて、参加者に意見をうかがっておられる。転倒等の事故報告を行った際には、ボランティアに来てくださっている方から「にいはまげんき体操」を紹介していただき、さっそく採り入れておられた。又、地域の方やご家族から「居室に手すりを付けてはどうか」という提案をいただき、手すりの設置もされていて「転倒事故が少なくなった」という成果も表われているようだ。会議に欠席したご家族には、会議議事録を毎月の送付書類とともにお送りしている。</p>	<p>今後、利用者も会議に参加できるよう取り組まれて、さらに、利用者のことを知ってもらったり、利用者の暮らしやケアがさらに良くなっていくための、アイデアや意見をうかがっていかれてほしい。又、管理者は「地域の人ができること・地域の人がやってみたいこと」等を知り得て、地域の人のお力をお借りしながら、事業所の取り組みにつなげていきたいと考えておられ、会議の機会を活かして、さらに、地域とのつながりが深まっていくことが期待される。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議への参加や状況報告、待機者報告、介護支援専門員の地域密着部会による懇談会、介護相談員の受入を行っている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、市の担当者の方が、感染症対策について話して下さった。6月からは、介護相談員の方の受け入れを始める予定となっている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 事業所内の研修にて身体拘束について学ぶ機会を設けており、正しい理解に努めている。玄関、裏口等、防犯上必要でない時間において、常に開錠しており自由に外出できるようになっている。</p> <p>(外部評価) 「帰りたい」という思いがある利用者が複数おられ、一人で出かけていくようなこともあるが、近くにある系列グループホームの職員とも連携して、ご本人が納得して事業所に戻ることができるような支援に取り組まれている。職員は、日頃から、利用者個々の理解に努め「職員は、ご本人のことを良く知っている存在」となることで、「事業所がご本人にとって居心地いい場所」となるよう努力をされている。現在、ご家族と話し合ってGPSを付けて、お一人で外出する利用者もいる。転倒等もあり、センサーを付けて、ご本人がベッドから足を下ろしたら職員に分かるようにしているような方もいる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 事業所内の研修にて虐待について学ぶ機会を設けており、ご利用者のケアから職員のストレス管理において職員全体で注意を払い、防止に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部研修や内部研修にて権利擁護について学ぶ機会を設けている。現在、当事業所ではそれらを活用する必要性はなく、今後そのような場面において速やかに活用し支援できるよう研修を継続していく。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には必ず重要事項説明書にて、十分な説明を行いご家族より承諾を得ている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族からは運営推進会議や来訪時に、ご利用者からはケアプラン作成時に要望等をお聞きし、運営に反映させている。  (外部評価) 毎月、ご家族への送付書類とともに、職員からの手紙と利用者ご本人の様子の写真を添えて送付されて、ご家族からも喜ばれている。又、日々の利用者の様子で変わったことがあったり、親せきの方が面会に来られた際等には、ご家族に電話する等、管理者は、ご家族と話す機会を多く作ることに努め、ご意見等をお聞きするよう心がけておられる。ご家族が玄関のお花を生けてくださったり、畑の世話等も一緒にしてくださっている。外出や演奏会等、行事時にはご家族も一緒に楽しめるよう案内をされている。運営推進会議時、「家族会」の開催について、ご家族から「行事に参加して交流することから始める」ことを話し合われた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員面接や事業所のミーティング等で、職員の意見を聞き、運営に反映させている。	
			(外部評価) 事業所は、職員全員が正職員で、法人研修や事業所勉強会等を重ねて、個々の力量向上に努めておられ、「少数精鋭」で利用者のケアに取り組んでおられる。又、「業務のスリム化」のため、現在、早出、日勤等、シフトによって業務を決め、行うようにされていた。法人全体の取り組みとして、職員個々が目標を持って取り組めるよう「マイプラン」を作っておられ、2ヶ月毎、個々に評価するようになっている。ユニットの入り口には、職員の顔写真とともに目標を示して掲示されていた。利用者の洗濯したものを間違わないように、職員のアイデアで個々にかごを用意して洗濯ものを入れるようにされていた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員一人一人にマイプランがあり、目標設定を行っている。2ヶ月毎に評価し、面接することで、日々向上心を持って働けるよう努めている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員の質を高めるため、各種研修(人材育成、介護力向上、認知症勉強会、介護技術、管理職研修)を実施している。また、個々の能力に合わせ外部研修を受ける機会を確保している。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他事業所との相互見学は行っているが、研修会等は介護支援専門員の部会のみとなっている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接時に、ご本人の情報(生活歴、習慣、好みなど)を聞き取り、その内容を基に、コミュニケーションを図り、ご利用者との関係作りを行っている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接時に、ご家族の要望をお聞きしながら、初回の介護計画を作成し、ご家族の不安点について1つ1つお答えしている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前面接での情報を基に、安心して生活できる環境作り(物的、人的環境の整備)に努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 家事の手伝いなど、できること、役割を持って生活して頂けるようにしている。	
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会に来てもらうだけではなく、ご利用者の状態によっては帰宅や外泊をお願いしたり、連絡を取り合うことで共にご利用者を支えていく仲間という関係作りに努めている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みのある場所(美容室、お墓、お寺、神社、デイ、商店など)へ出掛けている。入居前に使っていた社会資源は調べており、現在も継続して使用できている。回数は以前に比べると減っているが、最大限取り組んでいる。  (外部評価) 職員は「帰りたい」という思いがある利用者と、ご本人が生まれた場所に出かけてみられたり、近くの神社に行ってみることもある。神社は、ご本人が子どものころから変わることなく残っており、ご本人は職員に思い出話をしてくださり、ご本人の気持ちも落ち着くようである。又、ご自宅の自治会の方が、地区の敬老会のお祝いの品を届けてくださり、おしゃべりして帰られた。年賀状を投函することを支援したり、親戚や友人の方からの手紙のお礼に電話をする際には、職員がサポートをされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) それぞれにできることを把握し、日常生活の中でお互いが助け合える環境作りを行っている。ご利用者同士のトラブルにならない様、職員が間に入りコミュニケーション援助を行っている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後、必要に応じてご家族と連絡を取り合うことはあったが、長期的なフォローはなかった。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で本人の希望や意向を把握するように努めている。月1回ミーティングでご利用者のケアの見直しを行い、職員のご利用者に対する意識が共有化されている。 (外部評価) この一年間、利用者の心地よい環境作りに向けて、職員は、日々の中や学習療法を通じて利用者一人ひとりとコミュニケーションを図りながら、ご本人に関しての情報を知り得ることに努められた。職員は、利用者個々の好き嫌いや性格をよく知っておられる。	センター方式の24時間生活シート等も用いて、利用者個々の生活についての分析をされている。今後、利用者が日々の生活の中で選んだり決めたりできるような場面を増やす等、ご本人の思いや意向をさらに探り、それらを介護計画に反映して、ご本人主体の介護計画の作成につなげていかれてほしい。事業所は今後の課題として職員間の「情報の共有」を挙げておられる。アセスメント様式等も工夫を重ね、共有への取り組みをすすめていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご家族やサービス利用のあった事業所からの情報や普段の会話の中から把握できるように努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日の生活の中で、「できること、できないこと」を把握するように努めている。心身状態はご利用者の「快・不快」の様子を観察することで把握するよう努めている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 日常生活の中で出てきた課題やケアのあり方をミーティングで話し合い、ご利用者により良い生活をして頂けるよう介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価) 事業所独自の介護計画書様式は、「水分摂取」「食事」「趣味」等、支援が必要な項目に課題や支援内容を記入するようになっている。計画作成前には、日常生活動作についてアセスメントをされて、それに応じて、少しでも自立に向けた支援が実践できるような計画を作成できるように努めておられる。計画は、3ヵ月ごとに見直すようになっている。</p>	<p>利用者ご本人の暮らし方の希望等を十分に反映した、利用者主体の暮らしを支えていくための介護計画の作成に、取り組んでいけるような仕組み作りが期待される。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個人記録や排泄チェック表、健康記録表にて情報の共有を行っている。個人記録には具体的な関わりや気づきを記録し、実践やプランの見直しに活かしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) その時々ニーズに対応できるよう、他事業所の協力やユニット同士の連携を図っている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 様々な地域資源(フォーマル、インフォーマルなど)を活用し、ご利用者それぞれが力を発揮できるように支援している。今後も更なる資源の発掘に努力していく。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>基本は往診による診察。本人や家族の希望、また必要に応じて専門医の受診を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>協力医と相談しながら、入浴の回数や方法等も検討をされている。</p>	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>日々の健康状態、生活の様子等を毎日看護師に報告することで、情報の共有を図り、適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>入院中も週に2～3回は訪問し、利用者の現状把握と病院スタッフからの情報を得ている。それらを基に退院後どのように対応するか考え、受入準備をしている。</p>	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>介護、看護、Drの判断で終末期・重度化の傾向が考えられた時点でご家族に連絡し、意向や対応の確認を行っている。その後、事業所でできる最大限のプランを作成し、ご家族に説明、同意を得て取り組んでいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>「ほの花での暮らしの延長線状にある自然な「いのち」の看とりへとつなぐ」と、看とりケアの理念を作成して、利用者個々が最期まで「自分らしく生きる」ことを支援することについて、看とりの指針とともにご家族へ説明されている。8月にご家族個々に「看とりの意向」を確認され「可能な限り見てほしい」との意向が多かったようだ。事業所内には、看とりの際に使用できるような部屋を用意されており、庭を眺められたり、ご家族から贈られた「ふるさと」の絵画が飾られてあり、ゆったりした広さとなっていて、ご家族も泊まって過ごせるようになっている。職員は、看とり等について事業所内で勉強会をされており、さらに、法人で行われる研修には、ご家族も参加できるようになっており、方針を共有しながら看とりに向かえるような仕組みが作られている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に緊急時の対応を全職員で確認するようにしている。また、法人内での介護技術研修の中で、初期対応の訓練を行ったり、緊急対応マニュアルを作成し、一定レベルの対応が可能になっている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時のマニュアルを基に、年に2回以上の訓練を行っている。地域との協力体制はまだ図れていない。	今年10月に予定されている消防訓練時には「地域の方にも参加を呼びかけて、一緒に訓練を行いたい」と考えておられる。地域との協力体制を作るために、今後さらに、地域の方達と「認知症の理解」「車いすの押し方」等について勉強していくことを考えておられた。又、火災以外の災害を想定した訓練にも取り組んでいかれてほしい。災害時等、事業所が地域の方達に協力していただきたいことや事業所が地域にできること等、運営推進会議等の機会に具体的に話し合ってみてはどうだろうか。利用者、職員、地域の方の安全と安心への取り組みをすすめていかれてほしい。
			(外部評価) 半年ごとに防火訓練を行っておられ、昨年9月・今年5月に訓練を行っておられ、通報訓練や消火器の使い方等を訓練された。いざという時には、近くにある法人施設で協力し合うような仕組みになっており、法人全体でマニュアルが整備され、食べ物や水等の備蓄もされている。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ご利用者の方は人生の大先輩であることを常に心におき、声かけする際の言葉遣いに気をつけている。ご利用者の方一人ひとりをよく知り、今までの生活歴や価値観を大切にしよう心がけている。また、居室は一番のプライベート空間なので、掃除やゴミ集めの際も必ずお声かけさせて頂き、ご利用者の方が不快な気持ちにならないように取り組んでいる。	
			(外部評価) 職員は、利用者同士の関係性をみながら、必要と感じた時には仲に入り、利用者個々が心地よく暮らせるような環境作りを努めておられる。入浴時、男性職員が女性利用者の介助を行う際には、利用者からの要望がなくても、羞恥心への配慮やリラックスして入浴してもらえるよう、さりげない介助や会話に気を付けておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご利用者の方の一瞬一瞬の思いや感じるものを大切に、その時すぐ出来ることは一緒に行い、すぐに実施できないものは、職員全体で話し合ったり、行事計画を立て、可能な限り実現できるように心がけている。意思表示のできにくい方には、職員側が一方的に決めるのではなく、いくつか掲示、提案し選択できるようにしている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々のご利用者の方の望む生活が送れるようにする為、生活にメリハリをつけつつ一人ひとりが役割を持ち、生きがいを持って過ごせるように支援している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの好みを大切に、身だしなみを整えている。更衣する際も職員が決めるのではなく、いくつか提示し、ご利用者自身を選んで頂けるようにしている。おしゃれに興味のある方には本人のしたいことができるように支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 今までに台所に立ち、家族の食事を作られてきた方なので、その時のことや料理の話をする中で、一人ひとりの得意なことやできること、やってみたいことを把握し一緒に行っている。また、一緒に台所に立ち、役割分担しながら料理を作ったり、それが難しい人には、職員が作ったものを味見して頂くなど、食べること、作ることの楽しみや作業を通して喜びを感じて頂けるようにしている。	
			(外部評価) 法人の歯科衛生士の方が定期的に利用者の口腔内の状態をみに来てくださり、口腔ケアの指導等もしてくださっている。朝・昼・夕食前には、マッサージや発声等の口腔体操をして、利用者個々が食事しやすいように支援されている。調理員の職員が数名おられ、ローテーションでユニットに一人ずつ配置され、昼・夕食の準備をされている。魚は、魚屋に注文したものが届き、刺身がお好きでない方には、焼く等している。お肉がお好きな利用者が多く、調理法や彩り等も健康に配慮して、おいしく食事ができるように調理をされている。畑で採れた、大根、ジャガイモ等の野菜が一品加わることもある。利用者は、ご自分のお膳を下げたり、洗い物をされており、個々のできることを無理なく行えるように支援されている。調査訪問時には、食事を作るにおいが共用空間に広がっていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) こまめに声かけを行ったり、好みのものを用意するなど水分摂取に力を入れている。水分の進み難しい方には、寒天を出すなど工夫しています。その日の献立により、摂取量の少ない方にはその方の好まれるものをお出しするなどしています。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行っている。自力でされる方には声かけし、義歯を外して磨いて頂いています。自力で行うことが難しい方は、出来る範囲で行って頂き、不十分な箇所は介助を行います。定期的に義歯洗浄剤を使用している。居室で食事を取られた方には、ガーグルやブラシを持っていき、口腔ケアを行って頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 排泄チェック表に記録しながら、利用者の方の排泄パターンや状態を把握している。食前・食後トイレに座る習慣をつけている。利用者に応じて声かけや定期的な誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。</p> <p>(外部評価) 事業所は「しっかり水分を摂り、日中しっかり動き、排泄して、ぐっすり寝る」ことを目指して取り組みをすすめておられる。時間を決めてトイレに誘導して排泄支援をすすめていた利用者の中で、排尿の失敗が続く方がおられ、ご本人は夜間や昼寝から起きた時が、トイレへ行くタイミングということが分かり、現在、センサーを付けてご本人がベッドから足を下ろしたことが分かるようにされ、職員がトイレにお連れして支援することに取り組まれている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 毎日便の状態を確認し、申し送って職員皆が把握している。好みの飲み物や寒天を取り入れながらこまめに水分摂取したり、センナ茶や運動、体操、マッサージなど個々にあった取り組みを行っている。</p>	
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者の方の希望を取り入れている。気持ちよく入浴して頂く為に、同性介助や入浴の声かけ、時間帯を工夫し個々の利用者に応じた対応をしている。</p> <p>(外部評価) 入浴剤やゆず湯等で入浴を楽しめるように支援されている。現在は入浴を嫌がるような利用者はおられないようで、お誘いすると入られるようだ。高齢や体調のこと等も踏まえながら入浴の可否を職員で検討して支援されている。歌の好きな利用者には、職員がお好きな演歌のCDをかけるようにされ、聞いたり歌ったりしながらお風呂を楽しめるようだ。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 利用者の方の睡眠状態や体調をしっかり観察し、それに合わせて時間や場所を制限せず、休める時、休みたい時にゆっくり休んで頂けるようにしている。個々の利用者に応じた室温や環境を整えている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 毎日服用している薬をファイルに一覧にしている。ミーティング時、職員全員で服薬方法や注意点を話し合っている。下剤は利用者の便の状態に応じ、看護師と相談して調整している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりのできること、したいことをしっかりと把握し、役割のある生活が送れるよう支援している。(家事や畑仕事など)	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個々の利用者の希望に沿って散歩に出掛けたり、一緒に買い物に出掛けたり、近くの知人に会いに行ったりといった個別ケアを行っている。	事業所は「やりたいことがやりたいときにできる生活」を目指しておられ、外出支援についても、利用者個々の希望やニーズ等に応じて、支援していけるよう取り組みをすすめていかれてほしい。ご家族の要望をお聞きしたり、協力をいただきながら、利用者が日常的に戸外に出ることや地域に出かけることをすすめ、さらなる利用者個々の生活の拡充に取り組んでいかれてほしい。近くで、個々にお気に入りの場所等を開拓してみてはどうだろうか。
			(外部評価) 行事として、花見や紅葉狩り・初詣等の季節に応じた外出や中華料理を食べに出かけることもある。市民吹奏楽団の演奏を聞きに出かけたり、絵画展やお花を見に出かける等されている。行事には、ご家族も案内して、ともに楽しまれている。敷地内の畑の世話や中庭の花の手入れや水やりをしてくださったり、散歩を日課にしている利用者もおられる。現在は、よく外出する利用者とお出の回数が少ない利用者もいるようだ。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金は金庫にて個別に管理しているが、必要に応じて、ご利用者の希望時には所持して頂けるようにしている。一緒に買い物に行き好きな物を買ったり出来るよう個別ケアも行っている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 帰宅願望のあるご利用者が安心して落ち着けるよう、ご家族と相談し、電話をかけたがり、ご家族から電話をかけて頂くなどしている。お友達などから手紙が届く場合はお礼の連絡をしたりするようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節のものを置いたり、ご利用の方が作られたものや作品を廊下や共用室に飾っている。懐かしい音楽やビデオを流した際にはご利用者同士当時のことを思い出され会話が弾み笑顔が多く見られた。	
			(外部評価) 事業所の建物全体が和風の木のぬくもりを感じる造りで、窓を大きくとり、天井も高く、梁もみえて開放的な雰囲気である。所々に少人数で座れるソファーやイス、スペースが作られており、ご家族等が来られた際には、一緒に過ごす空間にもなっている。中庭を囲んで2つのユニットが配され、居間の窓から中庭に出て、花の手入れや水やりをする利用者もおられ、居間にいると人の動きがよく見える。併設には、法人施設の職員の子も達や地域の子も達が利用する法人託児所があり、子ども達の様子もよく見え、時々遊びに来てくれる。又、敷地内に畑があり、室内や外のベンチに腰掛けて眺めることもできる。照明は、明るさを抑えた照明を使用されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 少し目隠しになっている廊下のイスやソファーで気の合うご利用者同士お話をされたり、お経を唱えられる方の為に、畳の位置を変え、イスと座布団をおき、正座するのが難しい方でも座れるように工夫している。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れたものや馴染みのものを置くことで、使いやすく落ち着ける空間作りを行っている。少しでも今まで生活していた環境に近い状態を作るようにご家族の協力の下環境整備を行っている。	
			(外部評価) ご本人のお若い頃からの写真、ご家族の写真をたくさん貼ったコルクボードをご家族が用意されて、職員と見たり、お一人で眺めることもあり、ご本人はその写真を眺める時、とても良い表情をされるようだ。ご自宅で使用していたダブルベッドを持ち込んでおられる方もいる。居室の入り口の扉は、全扉、格子の形が異なっており、個々に木の表札をあげておられた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各トイレに「空き」「使用中」の札をつけたり、「今日の新聞」「昨日の新聞」と置くスペースを設け、目で見て分かるように工夫している。一人で外に出ることが多い方の為に、靴箱に札をかけ、職員と一緒に安全に外出できるように支援している。	